

市制施行60周年記念事業  
第52回 大月市生涯学習推進大会  
報告書

日時 平成26年3月2日（日）於  
会場 大月市中央公民館（市民会館）大ホール

【絆を深めて活力ある地域づくり】



まちづくり  
ひとづくり

いつでも、どこでも、だれでも学べる

大月市教育委員会



市制施行60周年記念事業  
第52回大月市生涯学習推進大会 実施要項

1. 大会テーマ 【絆を深めて活力ある地域づくり】

2. 大会主旨

「地域づくりは人づくり、人づくりは地域づくり」の信念のもと、活動を始めた方達、または継続してきた方達の実践例を通して、「何かを始めること（地域づくり）」が「絆の形成(人づくり)」に繋がり、やがて膨らんでいく輪の中で共に活動していくこと（人づくり）で活力ある大月市を創造すること（地域づくり）に繋がることを学ぶ。本大会では市民一人ひとりが夢を見出すことで行動を起こすきっかけを見つけ、地域・人との絆を深めていくことで生涯学習の意欲を高めることを主旨とする。

3. 主 催 大月市教育委員会・大月市社会教育委員会・大月市公民館連絡協議会

4. 日 時 平成26年3月2日（日）午後1時30分 開会

5. 会 場 大月市中央公民館（市民会館）大ホール

6. シンポジウム（第1部：パネリスト発表 第2部：会場との対話「意見・情報交換」等）

生涯学習の実践と成果の活用、学習に踏み出すための情報の提供や交換から生涯学習の楽しさを感じてもらう。

○コーディネーター

- ・特定非営利活動法人さいはら  
（羽置の里びりゅう館）  
事務局長 白井 誠一 氏

○パネリスト

- ・村山 正光 氏（無脳薬の会）
- ・米山 克美 氏（猿橋農産物直売所「はねぎ」）
- ・鈴木 律子 氏（おやさい応援団）

7. その他

- ・展示等 社会教育関係団体の紹介及び出店（1階 ロビー）  
各地区公民館・各社会教育団体の実施事業写真展（1階 ギャラリー）  
中央公民館利用団体作品展（2階 市民ギャラリー）
- ・アトラクション 市制施行60周年記念スライド  
ジャズダンスグループ「DREAMS」

8. 時間設定	受付・開場	12:45～
	アトラクション	13:00～13:25
	開会行事	13:30～14:00
	シンポジウム	14:00～15:55
	閉 会	～16:00

# コーディネーター紹介



しらい せいいち  
白井 誠一氏

(特定非営利活動法人さいはら 事務局長)  
(羽置の里びりゅう館)

会社退職後、立教セカンドステージ大学に入学し、NPOやコミュニティビジネスなどを学びました。その後、同大学で上野原市在住の方と知り合ったのが縁で、平成20年から上野原市西原地域の活性化に挑戦しています。

この間、当地域の活性化の拠点である「羽置の里びりゅう館」の館長として水車の復活、特産品の開発と販売などに取り組みました。また、平成22年にはNPO法人を立ち上げ、びりゅう館の指定管理を受けるなど更にステップアップした活性化を展開しています。現在は、過疎化地域対策として国交省が取り組んでいる「小さな拠点」づくり事業に合わせ、住民が望んでいる生活支援サービスの実現に向けた取り組みをしています。

# パネリスト紹介



むらやま まさみつ  
村山 正光氏

『喜んでもらえる喜び』 (無脳薬の会)

私は山形県天童市に生まれ、農作業がいやで東京に就職。江戸切り職人を目指して10年間修業し、ガラス工房を独立。10年間営んでいました。39歳で転職して大月市に移住。日影地区に住居を定め、26年。みなさんに包まれて日々楽しく生活、活動させていただいています。60歳の頃高齢になったらどのように生きるかを考えたとき、家族、自分、地域の仲間の健康が絶対必要条件と思い、健康維持のためにツボ押し健康法リフレクソロジーを学び、余暇を利用してボランティア活動をしたり、薬草の勉強をしています。薬に頼りすぎず自然治癒力、バランスのよい食事を大切に健康維持に努めたいと考えております。無脳薬の会の取り組みも、みんな健康で楽しく、イキイキ地域コミュニティーです。植物と生物の切っても切れない相互関係が今後の研究テーマにしています。

# パネリスト紹介

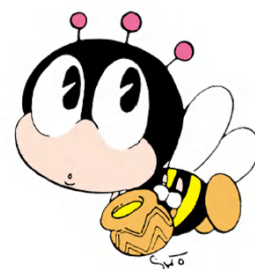


よねやま かつみ  
米山 克美氏

『私に出来ることは何か？』（猿橋農産物直売所「はねぎ」）

朝のバス停で、たくさんのお年寄りがバスの到着を待っています。乗り遅れまいと20分も30分も前から待っています。病院にでも行くのでしょうか？いいえ、スーパーの特売に買出しに行くのです。古くから栄えた街も今は、商店も閉じられ、人通りも少なくなって車だけが走り去る街になっています。

一つの人生の区切りをつけた私たちの出来ることは何か？何ができるのか？これが今の直売所を始めた要因です。「家族のために育てた安全な野菜を新鮮な状態で安く食べてもらいたい。」それには、何ができるのか？何をすればいいか？何かしたい。なんのスキルもないおじさんが始めた野菜直売は利用者の皆さんのお役に立っているのかが、



# パネリスト紹介



すずき りつこ  
鈴木 律子氏

（おやさい応援団）

茨城県出身、主婦兼イラストレーター。おやさい応援団団長。八ヶ岳自然ふれあいセンターにて、環境教育について学び、常陸大宮市森林科学館管理人、2005年愛・地球博森の自然学校チーフインタープリターを経て、平成19年より北海道当別町に移住。何日も止まない吹雪と、玄関や車を覆い尽くす積雪に打ちのめされるも赤子をオンブしての雪かきにやっと慣れた3年目、夫の東京転勤で大月市に移住。

直したいがなかなか直らない「慌て物」「無理な行動計画を立てる」性質で常に周りに迷惑をかけ助けられつつも、「自分も周りもちょっと楽しい」ことを広げていきたいなあといつも思いめぐらせています。絵を描くのも好きで、イラスト仕事の傍ら、大月市民の会新聞の「はつかりコブベンチャー」連載中です。

## 第52回大月市生涯学習推進大会 シンポジウム記録

### ■ 趣旨説明 【大月市社会教育委員 萱沼 洋一】

ここでシンポジウムの開始に先立ちまして、大会の経緯と主旨について簡単にご説明いたします。まず初めに経緯についてでございますが、今大会は6回に渡る社会教育委員会において、大会テーマや内容を決めて参りました。会議では、各委員から提案された大会内容案を関連する課題ごとにまとめ、それぞれの提案について社会教育との結び付きを考えながら検討を重ね、今大会のテーマ「絆を深めて活力ある地域づくり」及び内容が決定いたしました。続いて、大会主旨についてでございますが、「地域づくりは人づくり、人づくりは地域づくり」の信念のもと、活動を始めた方達、または継続してきた方達の実践例を通して、「何かを始めること（地域づくり）」が「絆の形成（人づくり）」に繋がり、やがて膨らんでいく輪の中で共に活動していくこと（人づくり）で活力ある大月市を創造すること（地域づくり）に繋がることを学ぶ。本大会では市民一人ひとりが夢を見出すことで行動を起こすきっかけ生涯学習の意欲を高めることを主旨としております。



### ■ シンポジウム開始

#### 【白井コーディネーター】

皆さん、こんにちは。私は本日のシンポジウムのコーディネーターを務めさせていただきます「NPO 法人さいはら」の白井誠一と申します。宜しく願いいたします。先ほどからお話にもあがっておりますが今回のテーマは「絆を深めて活力ある地域づくり」でございます。本日の大会が、地域活動を通じて、学びへの関心や実践しようという意欲を高め、人とのつながりの大切さを感じてもらおうキッカケになればと思います。大会に参加してくださった皆さんが、何か始めてみようかな、やってみようかなという気持ちになっていただけるようなシンポジウムになれば良いと思っております。



まずシンポジウムを始めさせていただく前に少しですが私の所属する「NPO 法人さいはら」について紹介をさせていただきます。私が所属する「NPO 法人さいはら」は上野原市西原地域での活性化を目的に平成22年6月に設立されました。会員は50名程度で地元住民だけでなく、西原を訪れて西原ファンになった首都圏のグループや、取材に訪れたNHKのディレクターの方などもおられます。西原地域は、今年の正月5日にNHKの小さな旅で紹介されましたので、ご覧になった方も多いのではと思いますが、人口670人位の少子高齢化によって過疎化が進んでいる小さな里山です。私達は平成21年からこの地域活性化の拠点として地元で運営している「羽置の里びりゅう館」という施設を中心にコミュニティビジネス活動を主とした活性化に取り組んでいます。具体的には西原に特産品を作ろうという活動ですね。それをびりゅう館ブランドとして市内外のお店に出して行こうとしています。西原を首都圏から始め日本全国の方に知ってもらおうという取組をしています。最近は国土交

通省の過疎化対策の補助金事業である「小さな拠点づくり」モニター調査にも参画しております。過疎化が進んでそれぞれ集落が孤立化していく中で、介護予防運動やカラオケなど楽しく集える施設に再活用しようという取組も始めています。従って私も今から活動をお話してくださるパネリストの方々と同じように、同じ想いの仲間と一緒に活動を続けている1人です。今日はパネリスト



の方々が活動を通じて学んだことや気づいたことなどを会場の皆さんと一緒に考える時間にしていきたいと思ひます。ここで1人ご紹介をしたいと思ひますが、富士・東部教育事務所の杉田眞先生をご紹介いたします。本日はパネリストの方々や、会場の皆さんの声を会場全体に届けてくださいます。杉田先生宜しくお願ひします。

#### 【富士・東部教育事務所 杉田 眞 先生】

宜しくお願ひします。

#### 【白井コーディネーター】

ではシンポジウムの進め方についてご説明いたします。本日は第1部、第2部の2部構成になっております。第1部は3人のパネリストの方々からの発表になります。60分を予定しております。第2部はパネリストの方々と私とのディスカッションが30分、会場の皆さんからパネリストの方々へ一言いただく時間を20分としています。大きく前半、後半に分けていますが、休憩はございません。席を外したい場合は、皆さんのご判断で休憩をとっていただければありがたいと思ひます。2時間という長い時間になりますので、皆さんのペースで参加していただければと思ひます。

では、いよいよ発表に移らせていただきます。最初の発表は、無脳薬の会の代表村山正光さんでいらっしゃいます。村山さん達は賑岡町の日影地区で蕎麦づくりを通じて地域住民とのつながりの輪を広げている活動をされております。村山さんは「私達は大したことをしていないよ」とおっしゃっています。きっと発表の中でもおっしゃるかもしれません。ただ皆さんがこれからの発表を聞かれたとき無脳薬の会の活動が徐々に地域の中に広がっていくのがお分かりになると思ひます。それでは村山さんお願ひ致します。

## ■ 第1部 パネリスト発表

#### 【パネリスト 村山 正光 氏】

無脳薬の会の村山です。よろしくお願ひ致します。

私達が生活している日影地区は、賑岡町の北部にある世帯数50戸足らずの小さな集落です。地域のコミュニティは、自治会組織を中心に公民館活動、消防団活動、育成会活動や高齢者の「いきいきサロン」などがあって、小さな集落だけにまとまりのある地域です。

今少子化と高齢化が急速に進んでいますが、私達の地域でも、子どもは幼児から中学生を合わせても10人足らずで、65歳以上の人が占める割合も高く少子高齢化の状態にあります。



賑岡町日影地区



それでは「無脳薬の会」についてご紹介いたします。

「無脳薬の会」は、活動を始めて5年になります。当初6人の会員も今は10人になり、会員は余暇を利用して蕎麦と小麦を作りながら親睦を深めています。

では、「無脳薬の会」が発足したいきさつと会の名称についてお話いたします。

数年前、イノシシなど獣の侵入を防ぐための防護柵を山梨県と大月市の事業として地域周辺に設置していただきました。これまでイノシシが畑を荒らして作物を育てている人は悔しい思いをしていましたが、防護柵が設置されてからはイノシシなどが入り込むこともなくなり、安心して耕作ができるようになりました。

こうしたとき、当時自治会の役員をしていた何人かで雑草が生い茂って耕作されないまま放置されている畑を借りて、野菜か何かを作ってみようという話が持ち上がりました。これが「無脳薬の会」を立ち上げるきっかけとなりました。

また会の名称ですが、《大した役にも立たない脳なし者の集まり》を振って「無脳薬の会」としました。

次に活動内容についてお話いたします。

私達の地域ではほとんどが自家野菜を作っている家庭で、蕎麦や小麦などの穀物類を作っている人はいませんが、手打ちうどんや蕎麦打ちに興味があったことから私達は蕎麦と小麦を作ろうということになりました。今日は蕎麦作りを中心にお話したいと思います。ご紹介している写真は都合により小麦の場面も出てまいりますのであらかじめご了承ください。

蕎麦作りは全くの素人でしたが、年長の会員が要領を知っていたので問題なく作付けを行うことができました。

最初は背丈ほどもある畑の草取りを行うのに何日もかかり大変な思いをしましたが、作付けのときは会員が自前のトラクターで耕した後、クワを使って作を切る人、種を蒔く人、肥料をくれる人など作業を分担し、その都度半日程度の作業で行っています。

写真は昨年10月に蕎麦を収穫した後で小麦の種まきを行っている様子を撮影したものです。作付けは2か所を借りていますが、合わせて約一反歩ほどの畑です。

蕎麦の種まきは、小麦の収穫が終わって間もなくの7月末から8月上旬に行っていますが、やがて花が咲き実が付いてくると収穫に向けて期待が膨らんでいきます。

10月末から11月上旬には、収穫の時期を見計らいながら刈り取りと脱穀をしますが、天候の具合や会員の都合を調整しての作業となることから、代表の立場にある私としては、作業日程の調整がちょっと面倒でもあり、厄介でもあります。昨年はお天候の影響で刈り入れが遅れてしまい、本来であれば、しばらくの間乾燥のために干しますが、去年は刈り取ったその日に脱穀まで行うことになりました。刈り取りはもちろん手作

#### 脱穀の様子 NO.1



無脳薬の会発足

#### ・無脳薬の会の名称

《大した役にも立たない脳なし者の集まり》をもちって

**『無脳薬の会』**  
と名付けました！

#### ・無脳薬の会の活動について

余暇を利用してそばと小麦を作りながら  
お互いの親睦を深めています。

#### 種まきの様子



#### 開花の様子



#### 取り入れの様子



業で行っています。

脱穀は昔ながらの足踏み式の脱穀機を使っていますが、最初の脱穀機は知り合いから譲り受けたもので、これが戦前から使われていた古い機械で、資料館に展示できそうな代物でして、脱穀するのは楽しくもあり、また大変な作業にもなりました。

写真はその脱穀機ですが、使っているうちにあちこちが壊れて修理できなくなったため、みんなで相談し、思い切って買い換えることになりました。これには相応の投資が必要となりますが、意外と会員の意気があったというか、すぐに話がまとまりまして昨年には買い換え、昨年の蕎麦は新しい機械で脱穀することができました。写真は小麦を脱穀したときの様子とそばを脱穀している様子を紹介しています。

この写真が蕎麦を脱穀している様子です。それまで2人がかりで脱穀機を操作していましたが、新しく買い換えてからは1人で脱穀できるようになりました。私達の会としては格段の進歩が見られました。

また、脱穀して粃殻と実を仕分けるため唐箕を使いますが、初めてのときは唐箕がなかったため、会員が工場で使っている大きな扇風機を唐箕の代わりに使ったこともありました。しかし、扇風機ではうまくいかなかったので、翌年からは知人から借用することになりましたが、結局唐箕も一緒に購入することになり、今は一通りの道具も揃っています。この写真は唐箕の代用に扇風機を使っている様子を撮影したものです。

この写真は新調した脱穀機と唐箕です。

次に脱穀した蕎麦を干す作業ですが、これは3人くらいが分担して行います。ですが、日中はほとんどの会員が生業を持っているため、会員の家族にも手伝ってもらっています。

脱穀・乾燥のあとは粉に挽くわけですが、最初は「石臼で挽いてみよう！」ということになり、会員が探してきた石臼を使って挽いてみました。興味本位にいい考えだということでしたが、これが大失敗に終わって、長い間使っていなかった石臼のためか、砕けた石臼の粒が蕎麦粉に混じってしまっただけで初収穫の蕎麦は食べられる状態にならなかったというお粗末なことになりました。このことは今でも笑い話になっています。

以後は製粉所をお願いしていますが、かつてはあちこちにあった製粉所も後継者がいないためか市内にはなくなってしまい、昨年には上野原市の大野にあるJAの製粉所で挽いてもらっています。

次に蕎麦打ちと試食会についてお話しします。

おいしい手打ち蕎麦やうどんは材料の良し悪しにあると言われてはいますが、蕎麦でもうどんでも打ち方や茹で方によって味が大きく違ってきます。

私達の会では、「手打ちうどん」を趣味にしている会員がいて、前々からこだわりの手

#### 脱穀の様子 NO.1



#### 脱穀の様子 NO.2



#### 粃殻と実の仕分け



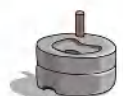
唐箕の代用に扇風機を使用



新調した脱穀機

新調した唐箕

#### 乾燥・製粉



#### 会員の家族も協力！！





打ちうどんを作ってくれていますが、蕎麦打ちの場合は、多少の知識は持っていても中々難しく、経験が最も重要な要素ではないかと思えます。会員の中には写真のような蕎麦打ちの道具を買い揃えるなど、家では試行錯誤を繰り返しながら蕎麦を打っている人もありまして、少ない経験からはまだまだ進歩が見られず、理屈だけが先行しているようです。

蕎麦打ちは市内でも教室など開かれているようですが、私達は上野原市の西原にある蕎麦打ち体験教室で、一度だけですが教えてもらいました。

この時は7人の会員が参加して、講師の先生から手取り足取りで教えていただき、緊張しながらも真剣な様相で一生懸命に取り組みました。はじめのうちは中々うまくいきませんでした、「こねる」「伸す」「切る」といった工程も悪戦苦闘しながらどうにか蕎麦らしいものが出来上がりほっとしたのを覚えています。出来上がった蕎麦は体験教室の方が茹でてくださり、私達は茹であがった蕎麦を食べながら「蕎麦屋で食べるよりうまかった」などと自慢話も出たりして、和気あいあいのうちに体験教室は終わりました。

次に地域との関わりですが、私達は蕎麦や小麦も自家用に挽いて会員や家族そして地域の皆さんに食べてもらうことで喜びを感じています。蕎麦作りを始めてから2年余りが経った一昨年の11月、初めて手打ち蕎麦やうどんを食べていただくとうと、試食会を公民館で行うことになりました。以来年2回くらいは地域の人達に参加を呼び掛けて、手打ち蕎麦やうどんを食べながらの親睦会を行うよう心掛けています。

蕎麦を食べる会を行う日には、早朝から蕎麦を茹でるかまどの支度や蕎麦打ちの道具を持ち寄るなどして、「こねる」「伸す」「切る」「茹でる」「蕎麦汁を作る」など会員が手分けで準備をしますが、これもまた私達の楽しみになっています。

昨年末には公民館活動の一環で「地域の昔を語る会」と「蕎麦を食べる会」を開いたところ、40人近い人達の参加をいただきました。参加された皆さんからは蕎麦の味も上々ということで大変に好評でした。写真では蕎麦を食べている様子をご紹介できなかったことを残念に思います。参加された人達からは大変に喜ばれたことで、私達の活動も意義のあるものとして地域の皆さんに認められたことに感謝しています。

ここで映像が入ります。

### そば打ちと試食



そば打ちには多少の知識を持ってはいたものの会員皆が素人…  
家で試行錯誤しながら上達に励んでいます！！

### そば打ち体験



上野原市西原にてそば打ち体験教室  
悪戦苦闘しながらもおいしいそばが完成

### 地域との関わり

そばも小麦も自家用に挽いて、会員や家族そして地域の皆さんに食べてもらうことで喜びを感じる

そこで…

### 地域での試食会を開催

### 試食会準備の様子



試食会準備の様子 映像1



試食会準備の様子 映像2



試食会準備の様子 映像3



試食会準備の様子 映像4



この写真は「地域の昔を語る会」の様子ですが、この会では私達が住んでいるところにどんな歴史があって、昔の人はどんな生活をしてきたのかを学びました。これから先私達の生活がどうなっていくのか、また住みやすい地域にするのにはどうしたらいいのかを考えるいい機会になったと思います。

以上私達「無脳薬の会」の活動につきましてご紹介いたしました。

私達の地域では、昔農業や織物業などが生業となって、主には地域の中に生活の糧を求めていましたが、今ではサラリーマン家庭が増えてきているため、人間関係も地域中心から職場中心へと大きく変わってきているように思います。

私達無脳薬の会はどこにでもあるような農作業を通しての親睦会で自慢できるような活動をしているわけではありませんが、蕎麦作りや小麦作りを通して人と人の絆を広げ、これからの高齢化社会の中で楽しく生き生きとした毎日が送れるよう少しでも地域に役立つことができれば幸いに思います。そのためには公民館活動との連携が有効であるように思います。

会員の平均年齢は68歳。まだまだ若いと自負しています。これからも元気で面白く、そして楽しく蕎麦作りを続けたいと思います。

私には初めての経験ということで分かりづらい点が多かったと思いますが、ご容赦ください。ありがとうございました。

### 【白井コーディネーター】

ありがとうございました。発表を聞きながら会場の皆さんもお分かりになったと思いますけど、まず6人で始めた無脳薬の会が慣れない蕎麦の栽培や蕎麦打ちなどをしていきますけど、会員同士や家族同士も大変な体験を共有することによってつながり、絆を深めていったということで発展していったと思います。先ほどお話のあった蕎麦打ち教室は私が前館長をしていたびりゅう館で行ったものなんですけど、最初お話を聞いたときは蕎麦打ちのインストラクターを若いと言っていたのですが実は…。でも蕎麦打ちの技術は本当に一流だと思います。話を戻しますとその大きなつながりで住民の皆さんにも蕎麦を振る舞って、地域の仲間が増えていった。それだけにとどまらず公民館活動や文化的な活動にもつながっていったということで、どんどん地域の仲間の輪が広がっているということで非常に素晴らしい活動ではないかと思います。ここで1つ質問なんですけど、このようにいきいきと活動を続けていく一番大きな秘訣はどのようなものか教えてください。

### 【パネリスト 村山 正光 氏】

非常に難しい質問ですが、私達の会は喜んでいただける喜びということで仲間といろいろな話しながら、考えながらやるのが楽しいです。1人1人いろんな意見があるのですが、話しているうちにまとまります。少年時代の遊びの情景が浮かんできます。遊べば楽しくなります。私達もチョイ悪おやじが集まっていますので、なかなか長い付き合いかなと思います。あくまで目標は喜んでもらえることを感じながらやれば継続するのかなと思います。

### 公民館活動との連携

日影地区公民館活動「地域の昔を語る会」と「そばを食べる会」を共催



地域の拠点、社会教育の拠点でもある公民館と融合し  
日影地区の活性化に繋がっている



そばや小麦を通じて人と人の繋がりを  
広げ、楽しく生き生きとした毎日を！

ご清聴ありがとうございました

### 【白井コーディネーター】

ありがとうございました。喜んでもらえる喜び。面白く笑いながら楽しく。これらの思いが活動を続けていける原動力になっているのかなと思います。村山さんありがとうございました。

### 【白井コーディネーター】

それでは2番目のパネリストをご紹介します。米山克美さんです。米山さんは名勝猿橋の袂で地元野菜の直売所はねぎを営んでおられます。ロビーにも出張されて「はねぎ」の看板が出ていますけども、そして一緒に働いている2人の仲間と地元のお年寄りや観光客に優しいふれあいの場として直売所を経営されておられます。それでは米山さんよろしくお願ひ致します。

### 【パネリスト 米山 克美 氏】

皆さんこんにちは。猿橋の袂で野菜直売所はねぎを開いております米山と申します。私が今の仕事を始めましてこの4月でようやく2年になります。縁あってこのような晴れがましい場所で発表させていただき嬉しいです。ちょっとの間お付き合いください。

今映っているのが私の名刺です。大月も猿橋も中々名物、特産品というものがないので、まずは目立たなければしょうがない。

私の店も小さい店です。そこでもやっぱり目立たなければやっていけない。まずは目立って誰かと繋がっていかねばというのが私の思いです。それでは話を本題に戻していきます。



先ほども出ましたが、日本全国、今高齢化で街が過疎化して人が歩いていない街、人の姿が見えない街が増えています。大月も同じように車で走っていると前方はるか遠くまで誰も歩いていない。街の中で人を見かけるのはガソリンスタンドと百均だけ。そこで皆さんにちょっとお伺いします。私も今非常に緊張していますけど皆さんも大分固くなっているようです。皆さんちょっとお立ちください。ちょっとお手間をかけます。今から質問しますので該当する方はお座りになってください。4人以上でお暮しの方。いらっしゃいますか。その方は座ってください。約12人位ですね。3人以上で暮らしている方は。同じくらいですね。じゃあ2人。あれれ、多いですね。1人の方。ありがとうございました。この通りなんですね。皆さんのご家庭非常に家族構成の人数が少なくなっています。これが私が店を始めるきっかけなんです。中々多く的人数で暮らしている方がいらっしゃらない。



例えば私が今還暦です。昭和30年代40年代の主婦は赤いビニールや青いビニールの紐で作った買い物かごを提げて買い物に出かけるんですね。夕飯の買い物に行ってお肉屋さん魚屋さん八百屋さん昔はありました。必要なものを買ってこむと急いで家に帰って支度を始めるわけです。当時買い物というのは主婦の大きな仕事であり楽しみであったんですけど、お母さんが忙しいときは子どもが遊んでいようが勉強していようがよく頼まれました。

そんな姿って皆さん最近どこかで見ていますよね。映画の ALWAYS 三丁目の夕日で見かけましたよね。ところが今は先ほども言いましたがそんな光景を見ることはありません。その理由には女性の就業率が高くなったこと。これはいいことだと思います。それからちょっとまずいですが、全国的に人口の減少が見られること。もう1つは高齢化。それから街の都市化。今はどこへ行っても主要の駅の近くではそこそこ都市になっています。

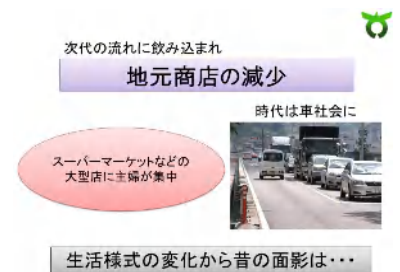
この写真はちょうどうちの店も映っているんですが、うちの店の前の通りです。実際にはこの写真は私が小学校くらいだと思います。そんな風景があったのですが今の街は商店街が空洞化していろんな日用品を売っていた商店がどんどんなくなってしまいました。ちょっと買い物になってことはできないです。何かがほしければコンビニに行ったりスーパーに行ったりします。

この直売所を始めるに当たり、非常に心配なことがありました。素人の直売所が既存の商店に影響を与えないか。売り上げが下がって悪い結果を持ち出さないかということが非常に心配でした。私達が始めてから暖簾を下ろした店があります。数えるほどしかない商店街の1つが暖簾を下ろすのはそこを利用していた人達にとって大変なことになります。店を閉めたということを知って早速ご主人とお話させていただきました。私達のお店の損害があったのではなく、人口の減少、後継者がいないこと、スーパーなどの出店による時代の流れに巻き込まれての閉店という風に言っていて、安心したというか残念だったというか何かやり切れない思いでした。

ところが今は買い物で混雑するところがあるんですね。先日の雪でスーパーでは車が駐車場に入れなくなりました。実は昨日もそうでした。雪が降ると言われみんな恐怖感から物を買に行きスーパーに入れなくなりました。大体夕方5時を過ぎるとスーパーの駐車場は車でいっぱいになります。その運転手は働くお母さん方でしょうね。お母さん達は仕事の帰りにスーパーに寄るわけです。急いでいますからしっかり駐車枠を決めてある白線を無視して斜めに停めてスーパーに駆け込みます。10分でも20分でも早く帰りたいから、急いで買い物を済ませます。出てくると買い物袋を軽自動車の後ろへ放り込んですぐ家へ向かいます。最近働く女性が多くなってこのように生活様式が変わってきました。日本は小さい国ですから、都会でも地方と全く同じようになるわけです。

しかしお年寄りだけの家庭はどうでしょう。車が運転できません。先ほどバス停に立っていた人達です。一番困っているのは若い人ではなくて、高齢者です。車の免許も返してしまっているような人達です。大月は珍しく1つの市の中にたくさんの電車の駅があります。駅がない地域に住んでいる人達はバスやタクシーを使うわけです。スーパーにタクシーで買い物に行くのも決して少なくはありません。皆さんの中にもバスのフリーパスを持っている方もいらっしゃると思いますが、その利用率は結構高いんじゃないかと思います。

実は私達の店の前もバス停なんですね。バス停の前に毎朝お年寄りが何人かバス待ちをするわけです。最初はその風景を見て、病院に行くのも大変だなと感じました。ところが2か



月、3か月するとどうも病院じゃないと思い始めました。なぜかというとは帰りにはその方々がたくさんの荷物を持って帰ってくるわけです。実はスーパーに買い物に行くためにバスを使っているんです。お年寄りには中々心配性ですからバスに乗り遅れまいと10分も20分も前からバスを待っているんです。今ここに出ているのは3人ですけど、こんなもんじゃないです。たくさんの方が頻繁にバス待ちをしています。うちの店もそんなにお客さんが多いわけではありませんから、バスを待っている間お茶を差し出しても中々休んでいってもらえません。ところがこのバス1本乗り遅れると1時間も待つはめになるわけです。先ほども言いました通り、おじいちゃんおばあちゃんだけで暮らしている方、あるいは若い方と暮らしているけれど若い方は仕事に出てしまうとのお年寄りだけになってしまう家庭では、朝一番の仕事はまず新聞折り込みのチラシを見て今日の特売品を確認し、お気に入りのリュックというリュックサックを背負って片手には杖をついてスーパーに出かけます。開店と同時に店に入ると自分のお目当てのものをかうために必死になる姿が見られると思います。ところがその方達も買い物が済んだらまた家に帰らなければなりません。リュックの中には自分の買ったものをいれて、それでも入らないものはエコバッグに入れてまた杖をついて帰ってきます。2、3日分の買い物をした重たい荷物を持って帰ってくるわけです。なんでこんな大変な買い物をしなければならなくなってしまったのか。非常に生きづらい世の中だと思います。

この話は決して地方だけの話ではなく、先日日経コラムの中で都内の話が出ていました。港区芝、東京タワーの御膝元にある「虎ノ門いきいきプラザ」という施設があります。ここでは1週間に1度日用品や野菜が販売されます。それは周りがオフィスビルだらけであり、買い物に中々いけない方を対象にバザーを開いているそうです。都会でもこういう風な買い物が難しくなっているそうです。私のこの直売所というのは私を含め3人でやっていますが、3人とも高齢者と暮らしています。なので、バスを待つ高齢者は他人事ではありません。私の母も昨年免許を返しました。

「自分たちがやっているお店なのだから、何でも挑戦してみよう。」  
「生産農家にも応援してもらおう。」



**行動の原動力に！！**

私のところのお店は非常に小さなお店ですから何かしようとしても何もできません。でも誰にも止められることもないですし、何でもできます。まして野菜を提供してくれる方が60件以上ありますので、この方々に協力してもらえば、もっと面白いことができるという思いが原動力になります。

店を始めてすぐ販売商品の小型化ということをしました。この写真ではたくさん並んでいるように見えるのですが、実際大月で野菜をとれる量は少ないです。最盛期の写真だと思えます。2人、3人で食べきれぬ量で金額を落とした安い商品で、地元で取れる新しいものを考えました。お米も最初は2キロにしてお年寄りが持って帰れる量にするためになるべく小さくしました。値段は10キロだから安い、2キロだから高いということはありません。全部重さ単位で計算して設定させてもらっています。店だから儲ければいいじゃんという話もありますけど、それはちょっと別に置いて次に考えればいいやという考え方です。

そこで考案したのが・・・



2、3人家族を対象にし、少人数で使い切れるように小分けにして販売

1人暮らしのお年寄りには  
買い物も会話の  
楽しめる大切な時間



毎日の他愛のない会話が信頼関係を作り、  
外出することが楽しみになる

**お客さんとの絆づくり**

もう1つの話ですが、1人暮らしのお年寄りというのはこの雪の時も顕著に表れたのですが、話をする相手がいると1日中でも話せます。昨日来た客さんもよくしゃべっていました。雪で外に出れな

かったので、しゃべる機会がなかったからでしょうか、本当によくしゃべります。お年寄りの方も同じで話をして、自分の感情を出して、笑ったり怒ったり感動したりすると精神的にほっとするものがあると思います。その場面を提供するというのもうちの店の務めじゃないかと思えます。この写真の方が面白い人でお年寄りの相手が抜群にうまい人です。

もう1つのそういう思いで始めた商品ですが、弁当を作るということです。皆さん若い方の中にも自分が仕事に行ってから高齢の親が昼食の用意のためにガスや火を使うことに不安を感じる人はいますか。実は非常に危ないことなんですね。私も消防や年金もやってお年寄りと付き合うことが多かったので、着ているものに火が付いたりしてパニックになっている間に広がってしまうということもあります。そのために簡単で安くて地元のものを使って、なおかつ火を使わないで食べれるものを提供しようということで始めました。うちの店は非常に小さいですが、様々な免許を揃えてお弁当を作って出しています。売れることは非常にうれしいことですが、1人で作っていますから足りないこともあります。1食250円で自分達のお店に出てくる野菜を中心に使いますから油や塩をなるべく抜いていますので非常に食べやすいと思えます。お弁当として昼間に食べるには十分な量をお出ししております。観光客にも評判がよくそのたびに売り切れになってしまうこともあり、地元の方に提供できないのが残念です。20食30食作ればいいのですが、そんな余裕がないです。いつもできることがいつも引き続きできるのがいいというスタンスでやっています。あまり力んでやっていると結局自分が大変で他人に迷惑をかけてしまいます。

もう1つ私には別の仕事がありまして、先ほども言いました通り名勝猿橋と言われ昭和9年から重要な観光地という位置づけがあるんですが、パッとしません。猿橋の云われを知っている市民が非常に少ないです。これはまずいということで野菜を売る合間に本やインターネットで拾った資料を基に猿橋の観光案内をしています。観光会社のバスツアーの方も申し送りをしてくれて、それがだんだんテレビなどのマスコミや新聞、雑誌にも載ったりしています。中々猿橋というのは案内をされると面白いんですよ。案内をしていたらテレビのスタッフだったり、地層の話をしていると大学の地質学の教授だったりしたこともありました。先日はコスプレをしたお姉さん方が今年の夏ごろ3人ほど来まして、その後ろをカメラマンが追っかけてたりしていました。うちのブログにもこの方が載ったあとは普段の3倍から5倍くらいのアクセス数でした。もしよかったら「猿橋農産物直売所はねぎ」で検索してみてください。毎日お弁当などがアップされています。

こんな風にお客様を相手に話をして、観光に来た方には自分なりのうんちくを語ってこれが人と人とのつながりにもなっているのかなと思えます。これからも地元のお客様を大切に安くてうまい野菜を提供する「優しい直売所」を目指そうと思

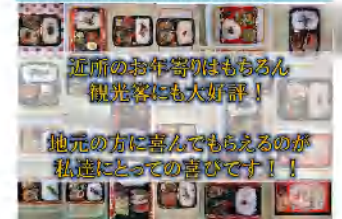
#### 直売所を始めた当初からやってみたかった事

- ・近所のお年寄りに簡単な食事が提供できないか
- ・地元のおいしい野菜を気軽に食べてもらいたい
- ・お年寄りが火を使わなくても済む食事を出不せないか

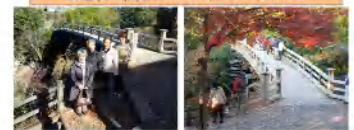
手軽に食べられる  
お弁当の提供

#### お弁当一覧

現在週5日、直売所で手軽なお弁当を提供しています！  
1日10食限定、低価格が売りの250円



出店場所が猿橋の袂ということで猿橋の観光ガイドもしています



これも「人と人との繋がり」

直売所と地域のお年寄りやお母さん方との間に「優しい絆」を育む



います。直売所を通して地域のお年寄りやお母さん方に優しい絆を育むことができたなら幸せです。皆さんもよかったら寄ってみてください。ありがとうございました。

### 【白井コーディネーター】

米山さんありがとうございました。発表の始め辺りに昭和30年代40年代の頃のお話がありましたけど、このように米山さん達はシャッター通りとなっていく商店街に危機感を募らせながらお客様とのお店のつながりと優しさがあった昔ながらのほのぼのとした地元の商店を目指していると思います。特にお年寄りの買い物について非常に細かい心遣いをしておられます。ここで1つ米山さんにお聞きしますが、米山さん達が取り組まれていることは特にお年寄りにとって非常にありがたいことだと思いますが、今後はどのように繋げていきたいと思いませんか。

### 【パネリスト 米山 克美 氏】

お弁当の宅配業務とかあって非常に助かると思うんですが、行政がもっと関わっていいと思います。今後間違いなく自分で食べるものを作りきれない人が増えていくと思います。それに対して行政が関わって支援していてもいいのかなと思います。あとは男の方に外に出てもらいたい。いろんな地域の活動ではお母さんやおばあちゃんが出てくる人が多いです。なので、男の方に出てきてもらってちょっとしたことをやってもらいたいです。都留市なんかは小学校の下校時間を防災無線で知らせて地域の方々がお出迎えをされていて面白いことだなと思いました。そんなことができたらいいなと思いました。

### 【白井コーディネーター】

ありがとうございました。では最後の発表になります。最後の発表は鈴木律子さんです。

鈴木さんはちょうど3年前に発生した東日本大震災による原発事故で大変な思いをされておられる方々の力になりたいという思いから、仲間と一緒に「おやさい応援団」というボランティア団体を作り、山梨で採れた安心な野菜を東京や埼玉に自主避難されているママさん達や福島の檜葉町などに送る活動をされています。それでは鈴木さんお願いします。

### 【パネリスト 鈴木 律子 氏】

初狩に住んでいる鈴木律子と申します。話があちこち飛ぶ方なので分かりにくかったり聞きにくかったりしたら教えてほしいです。よろしくお願いします。

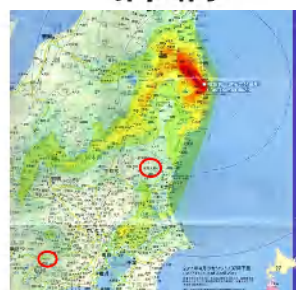
生まれが茨城県の常陸大宮市というところなんです。福島第一原発に結構近いところなんです。あちこちに引っ越しして3年前に山梨に引っ越してくる前は北海道に3年間住んでいました。山梨に越してきた最初の家は藤崎で一昨年からは初狩に住んでいます。夫と娘2人とあとは鶏がいっぱいなんです。

2011年の3月11日午後2時46分、私は北海道にいました。震度は大したことなかったんですけども、娘の幼稚園のお迎えで天井の電灯が揺れて、友達がとっさに娘をかばってくれたのをよく覚えています。帰りのカーラジオで本州が地震と津波で大変なことになっていることを知って、急いで地元で電話してみましたが、やはり繋がらなくて、実家は少し離



**おやさい応援団**

鈴木 律子



れてはいたのでそんなにひどくはないかなと想像していましたが、南相馬市に仕事の先輩が住んでいてその方がすごく近かったので安否確認をしたんですけど何日間か連絡が取れなくてひやひやしながらテレビにくぎ付けでした。結局その先輩は後で大丈夫だと分かったので安心しました。でも知り合いの方はたくさん流されてしまったということは聞きました。



そのころにはもう4月から山梨にくることが決まっていた、引っ越し荷物の受け取りが震災の影響で数日遅れた他は、水道も電気も買い物も何不自由することなく新生活がスタートしました。でも、北海道から山梨へスルーしてきてしまって、故郷が大変なことになっている状況があったわけです。一緒に子育てを始めたお母さん方が茨城で原発事故の影響で非常に不安な思いをしているということを知っていながら山梨にきてしまったことに運よく自分が被害に合わなかったことをラッキーと思うことはできませんでした。でも専業主婦ですし、子どももまだ小さいので、身動きもとれず私にできることは何も思いつかず、寄付をしようにもうちの家計にはまったくそんな余裕もなく、そもそも現地が今どうなっているのかもよくわからず、ただただ悶々としていました。



1度だけ、ボランティアで2日間夫と2人で南三陸町に行って、漁師さん達が使う土嚢作りを手伝ったり、漂流物が山肌に引っかかっているものを撤去する作業のお手伝いに行ってきたのですが、漁師さん達はやはり強いというか、全てが流されたのに自分達は海と一緒に生きていこうとする漁師さんの姿にすごいことだなと思って、とても貴重な経験になり、やはり行ってみたいと分からないことがいっぱいあるなと感じましたが、やはりお金も時間もかかるのでそう何度も行くことはできないなあと思知らされました。



そうして半年が過ぎたころ、上野原市で映画の上映会がありました。「内部被ばくを生き抜く」という映画で福島原発の周辺で事故後の放射能に戦う人達や広島長崎の放射能の患者さんをずっと見てきたお医者さん等がインタビューに答えたりするような映画なんですけれど、1つ印象的なエピソードがありました。それは福島県二本松市でお寺さんが経営する保育園の話でした。事故後なんですけれども毎週金曜日になると全国から段ボールで何箱も野菜が届けられそうです。平地にいらっしゃる人づてだと思んですけども、特に西の方の野菜が届いて、どんな小さな野菜も残らずに保護者の方が持って帰るエピソードが出てきました。



茨城もそうなのでよくわかるのですが、もともと野菜がおいしくて東京とかにどんどん出荷する産地なんですね。野菜を1つ買うにしても例えば都会の方がスーパーで産地を茨城産から愛知産へ変えるのとは訳が違うんですね。自分の家でもご近所でもみんな野菜を作っていて、みんなおすそ分けし合ったりして、近くのお店に行っても旬のものはみんな地元



野菜という状況で地元の野菜が食べられないことや子どもに食べさせられない悔しさは大変なものだと思います。その後本や新聞、インターネットや人づてに聞いた話ですけれど、ほとんど報道はされていないんですけども、本当は福島全域やその周辺の線量の高いところは住民の方々を強制的に避難させないと危険な地域になってしまったと。ただしそれをやってしまうと費用や避難場所がどうしても足りなくなってしまうことが目に見えているので、国は基準値を引き上げて住んでもいいということにしてしまったということを知りました。私は数字のことはよくわかりませんので正確なお話はできませんが、そんな専門家の方達の話の飛び交う状況の中で、子どもを抱えたお母さん達はどんな気持ちだろうと。避難できる人はいいいんですけど、事情があって避難もできず、子どもってというのは細胞分裂が活発ですから大人の何倍もリスクが大きくて、これから妊娠の可能性を持っている若い子たちはどんな気持ちでいると考えるとまたもやもやしていました



福島復興アヒダラフ 東北関東大震災記録より

話がちょっと変わりますが、私は生協の宅配を利用していて、月一回チラシに挟まってくる「のんびる」という雑誌を購読しています。表紙を見ると、「障害という制度」「おいしくつないで故郷をもりあげよう」など結構草の根活動を取り上げている雑誌です。その中に古Tシャツを募集しますという記事がありました。福島の楢葉町から会津の方の仮設住宅に避難されている方々がもともとは支援物資の古布を使って布ぞうりを編み始めました。支援物資を使い切ったので今度は全国から古Tシャツを集めて、それを使って編んで首都圏の復興イベントで売ってそれをそのまま義援金になって編み手に戻るというプロジェクトがあって、そのTシャツ募集の記事を見ました。これなら私にも協力できるかも！と思い、自分の家族の分を用意し、せっかく送料かけるならもっと集めよう！と大月でできた友達や近所の方々に声をかけ、少しまとまった量が集まったところで担当の方に電話してみました。そうしたら「せっかく集めていただいたので、こちらから受け取りに伺います！なんなら現在の被災地のお話もしましましょうか」と願ってもないお申し出をいただきまして、実現することになりました。チラシを作って配り、ウェルネスパークでイベントを一昨年行いました。



この時は、東京の支援団体「ならば盛り上げ隊」の方々が来てくださって、被災地のスライドショーとか布ぞうりの販売会、編み手さん達へのメッセージを入れた古Tシャツの贈呈式を行ったんですけども、1つ用意してくださったワークショップがありまして「もしも山梨・静岡で南海トラフ地震が起きて、浜岡原発が爆発してしまいついでに富士山も噴火してしまったとき、このあたりが一斉に被災地となってしまったとき、大月はどうなるのか。そしてあなたはどうする？」というワークショップをしてくださいま



布ぞうり行商と東北の今を伝えるワークショップの様子(ウェルネスパーク)

した。この時30人近い参加者が参加してくださったのですけれども、それぞれ皆さん得意のことを発表してくださいまして、自分に何ができるか発表してくれました。私自身も改めて自分だったら何ができるのかと考えさせられました。この写真の真ん中にあるのが古Tシャツが詰まっている米袋です。これを檜葉町へ送りました。この写真は会津の仮設住宅の方々です。



ワークショップの後1つ思い出したことがありました。夏に近所のおじいちゃんがきゅうりをバケツ一杯くれたことがありました。そのおじいちゃんが直売所に出荷していらっしやって、それでも余ってしまうと言っていました。「これだ！この野菜をほしい人達に送ればいいんだー！」と思いつきました。またチラシを作りました。これなら大月を離れられなくても、時間が限られていても、子供と一緒にでもできる！と1人で盛り上がり、すぐに南相馬市の先輩にすぐに電話してしまいましたがあちらがびっくりしちゃったみたいで「ちょっと落ち着いて」と呆れつつも、「でも、福島のこと考えてくれてありがとう。忘れ去られてしまったり、無関心なことが一番怖い。たしかに他県産の野菜を買おうとしてもお店では手に入らないことが多い。職場のみんなに聞いてみるね」と言ってくれました。返事が待ち遠しい一方、おせっかいじゃないだろうか、もっと他に必要としているものが他にあるんじゃないだろうか、という不安もありましたが、そういうことはとにかくあちらと腹を割って話すしかないなと思い、その後のやりとりで相談した結果、「送料は着払いで送る」「送る間隔は2週間以上あける」「送料は2千円以内におさめる」という約束で一昨年の11月から南相馬市博物館などに最初は7世帯分の山梨野菜を送り始めました。この写真はキリスト幼稚園の園児が育ててくれた大根です。送る野菜には添え状をつけるようにしています。作ってくださった方の説明を加えて送っています。



その後、ならば盛り上げ隊の方の紹介で、だんだん人が増えていきます。こちらは東京や埼玉に自主避難しているママさん達の集会や、先ほどの布草履を編んでいる檜葉町の方々が住む仮設住宅の雪まつりへの食材提供をしています。こちら200世帯くらいあるので全体の量へは全然足りませんでした。送り先も徐々に増え、現在は全体で30軒ほどの受け取り手の方々にお送りしていることとなります。なかなかスムーズに送れるわけではなく、野菜が手に入った時だけ送るという不定期発送です。野菜の種類も選べないので箱半分小松菜だけ、なんてなることもあり、受け取り手の方は利用しづらい面もあり申し訳ないなあと思いつつ、それでもすごく喜んでくださるのでそれが励みになり続けています。



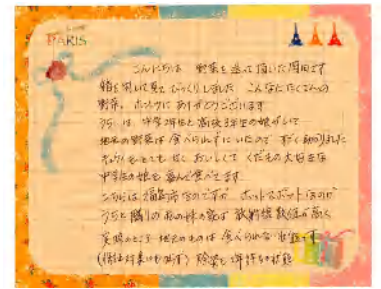
1つお礼の手紙をくださった方がいましたので読ませていた

だきます。「こんにちは。野菜を送っていただいた岡田です。箱を開いて見てびっくりしました。こんなにたくさんの野菜。本当にありがとうございます。うちには中学2年生と高校3年生の娘がいて、地元の野菜は食べられずにいたのですごく助かりました。キウイもとても甘くおいしくて果物大好きな中学生の娘も喜んで食べています。こちらは福島市なのですが、ホットスポットなのかうちと隣の私の妹の家は放射線数値が高く実際のところ地元のものは食べられない状態です。補償対象にもならず除染も2年待ちの状態です。こんな状態の時に、皆さんの温かい心遣いとお手紙に思わず涙が出てしまいました。」…と2枚目に続くのですが、あまり読むとこっちまで泣けてきちゃうのでこのへんで止めときますね。

そんなご縁で大月にも遊びにきてくれました。今年のGWと夏休みなんですけれども東京や埼玉に自主避難しているママさん達が、小さな規模なんですけどもうちで学習会をしてくれて、結局4家族くらい来てくれて2泊3日で初狩のおうちに寝泊まりしながらすごく楽しく過ごしていただきました。これは笹子川です。うちのすぐ近くで子ども達は地元で出来なくなってしまった泥んこ遊びを思いっきり楽しんでいって3日間笹子川に通ってました。この写真はお母さん達です。河原でおつけ団子を作ってもらっておいしく食べました。あとははねぎさんにもお野菜を提供してもらったのでショッピングにも出かけました。帰るときには大月に空き家はないのと盛り上がり話していました。こちらはみんなで楽しくご飯を食べているところです。

話が戻りますがおやさい応援団の一番大きな目的はもちろん「原発事故でつらい思いをされてる方の力になりたい」ですが、もうひとつあります。「自分の周りの人たちに、原発についてもっと身近なこととして感じてほしい」という目的もあります。いくら経済効果があったって、だからといって空気や土や水を汚染し食べ物を食べられなくして子ども達の命をおびやかすような発電方法には1人の母親として絶対に反対です。これまで普通に食べていた食べ物がある日を境に急に食べられなくなるとはどういうことか。生まれ育った故郷にある日を境に住めなくなるとはどういうことなのか。そういう事を私はおせっかいにも、原発から遠いからって他人事としてるんじゃなく、もっと身近なものとしてみんなで考えようよと願っています。すみません。きっとこの会場にはポツと出の私なんかより昔から原発に対して嫌だなどと思っている方や長く活動されてきたような方もいらっしゃると思います。今言ったようなことは過去の自分に後悔しているからです。東海村原子力発電所から20キロの距離に生まれながら、チェルノブイリの原発事故があってもJCOの臨界事故があっても、全く他人事と思って関心すら持たなかった自分への大きな後悔があつての思いなのです。

そこで、私はこの野菜を送る活動を私1人のものとせず、賛同してくれる人みんなで協力してやってみよう、言い方悪いですがなるべくたくさんの人を巻き込んでやってみようという気持ちで活動することにしました。それで「おやさい応援団」と名付けたわけです。



笹子川にて



笹子川にて



実際にすごくたくさんの方が手伝ってくれます。特に登録制とかではありません。手を貸してくれたら勝手に私が認定している人が多いので、自覚せずに応援団になっちゃっている人が大月市内外で50人は超えているんじゃないかと思います。おすそ分け野菜をとっておいてくれたり、はじめから寄付するつもりでお野菜を作付してくれたりする方もいます。すごくありがたいです。同封するレシピを用意してくれたり、寄付を集めてくれたり、新たな農家さんを紹介してくれたりと多岐に渡って手伝ってもらっています。先ほどの夏のキャンプの時にも食材の差し入れ、ご飯の用意はもちろんのこと、子供の遊び相手、布団や車のレンタル、出張アコーディオンの演奏まで、本当にたくさんの方々にご協力いただいております。



この写真は甲府の舞鶴公園で脱原発でデモ行進を毎週金曜日にやっている方がいて、私も参加してきました。ちょっとでも意思表示できたらなと思っております。真ん中の横断幕は描かせてもらいました。いろいろ派生して布ぞうりを作るのを手伝わせてもらったり、南三陸町の家をなくされた方の新しい家を作るんだったら、地元の大工さんで地元の木を使って建てようというチラシを描かせてもらったり、ついには布ぞうりの編み手の方に会いに行けたりと楽しいことに派生してやっております。



甲府市舞鶴公園にて

先日の大雪の時には、うちも被害があったんですが、うちの集落も孤立してしまっていて、みんなで1日中雪かきを頑張っていたんですけれども、お野菜を受け取ってくださっている方々からも、ずいぶんご心配いただきました。「困っていたら何か送るから！」



※津東町に急ぎ製作中の布ぞうり  
引所は、6人1はる

「除雪、無理しないでね」と、東北地方も大変なのに声をかけてもらって、ありがたいなあと思いました。以前、ならば盛り上げ隊の方が言っていた、「こういう非常事態になった時こそ、大げさでなく、”つながっていること”が”いのちを守ること”になるんだと思う」という言葉が身に沁みました。支援する側、される側、なんて一瞬でコロッと逆転するかもしれない。「してあげる」「助けてあげる」ではなく、「つながっている」関係を持ち続けていきたいと思いました。お野菜の受け取り手の方々とも近所の方々ともつながっているということが一番大事なんだと感じました。



切村町福民の自宅

大雪で、いつもお世話になっている都留市の農家さんも、ビニールハウスが潰れて大変な被害を受けてしまいました。雪が溶けたら復旧作業になると思いますが、私たちおやさい応援団も話し合っ、できることを見つけてなにかお手伝いできればと思っています。何しろ畑が真っ白なので、しばらくお野菜を送ることもできませんが、雪が溶けて、野菜を作れる状態になったら、また、野菜を送るのを再開したいと思っています。私もご近所さんに教えてもらって真似しながらいい野菜を作って送ってあげられたらと思っています。もし、採れ過ぎて困った際にはお手持ちのパンフレットの間にチラシが挟まっていますので、ぜひご一報ください。野菜はないけど気持ちはあるよ、という方もぜひ、私までお声をかけ



ご清聴ありがとうございました

ください。繋がることができたらなと思っています。応援団メンバー主催の、放射能に関するざっくばらんなお喋り会も月一回ありますので、関心のある方はぜひお声がけ下さい。まとまらない話でしたが最後までお付き合いいただきありがとうございました。



【白井コーディネーター】

鈴木さんありがとうございました。発表は非常に感動的なものでした。鈴木さんは原発事故で困った方々の力に少しでもなりたいという想いと後半部分にありましたけれど同時自分の今までの反省点も踏まえてみなさんに原発を身近な問題として考えてもらいたいというもう1つの思いもあるようです。非常に印象的な言葉が「日頃つながっていることが命を守る」という印象的な言葉を残してくれました。

## ■ 第2部 ディスカッション、会場との対話

【白井コーディネーター】

それではここから第2部に入らせて頂きます。

実はですね2部はパネリストと私とのディスカッションなんですが、時間が迫っていますので、これと会場との対話交換を一緒にしまして意見交換という形にしたいと思いますので、ご了承いただきたいと思います。



それでは、杉田先生よろしくお願ひ致します。

ではまず3人のパネリストの方々をお願いしたいのですが、皆さんのお話をお聞きして、私も何かやってみたいなということやどんな風にすればできるのかなという方も結構おられると思うので、こうやったらいいのではとかこうやったら簡単だよというお話を一言いただきたいと思います。では村山さんからお願いします。

【パネリスト 村山 正光 氏】

簡単なことだと思うんですけど、私達の日常生活の中で面倒くさいことがいっぱいあると思うんですけど、ただそれを1つずつめげずにやったときに物事が解決するのではないかと私は思っています。なので皆さんも何かやってみたいことがあったら始めてみてはどうでしょうか。それで興味のある方を誘ってやっていくことが続いていき、活性化に繋がっていくのだと思います。

【白井コーディネーター】

ありがとうございます。仲間を創って仲間と話し合っているような問題を解決して新しいことに取り組んでいこうというような村山さんからのお話でした。

次に米山さんいかがですか。

【パネリスト 米山 克美 氏】

できることはやりましょう。恥ずかしがっていては何もできません。できることはとりあえずやってみる。これに尽きると思います。

【白井コーディネーター】

ありがとうございます。できることはとりあえずやってみようということだと思います。次に鈴木さんお願いします。

【パネリスト 鈴木 律子 氏】

「いいねー」と言ってくれそうな人に相談するということがいいかなと思います。私の場合はいいねーと背中を教えてくれる人に相談しています。あとはやったら絶対楽しいのでやってみる価値があると思います。

【白井コーディネーター】

ありがとうございます。全くそうだと思います。背中をポンと押してくれる人に相談することはいいことだと思います。

ではここから杉田先生にお願いして今日参加してくださっている方々からご意見ご感想、または各パネリストの方々への励ましの言葉を頂きたいと思いますのでよろしくをお願いします。

【富士・東部教育事務所 杉田 眞 先生】

はい。了解しました。時間が押していますので、全部ひっくるめて聞きたいと思います。

ではせっかくの機会ですので、この会で今お話の中で感じたこと、感想、コメント、質問などありますでしょうか。

【意見者 A】

市内から来ました。無脳薬の会の村山さんにお伺いします。最初6人で始めたということですが、言い出したのは村山さんなのでしょうか。



【パネリスト 村山 正光 氏】

うーん。この辺が曖昧なんですけど、最初に話に乗ったのが私です。

【意見者 A】

最初6人でやり始めて、普通は年々会員が減っていってしまうんですけど、無脳薬の会は年々増えていることにすごく関心しながら聞いてたんですけど、そういう増やしていくために皆さんにやる気を起こさせるような秘訣はありますか。

【パネリスト 村山 正光 氏】

私として考えるのは、私達の会は規則を作らないようにしています。規則があるとどうしても面倒くさくなったり、面白くない人も出てくると思いますので、あえて規則を作りません。そして、皆いろんな意見を出して、話し合ったり、笑い合いながら作業するうちにうまくいった気がします。自然に成り行き任せでやっています。あまり大したことや面倒なことはやらないようにしています。



### 【意見者 A】

ありがとうございます。参考になりました。

### 【意見者 B】

パネリストの3名の皆さん大変ありがとうございました。伺っていて感じたことは3団体が3団体とも構成されている皆さんと大変仲良く活動されているなということがよく分かりました。話を伺っていて感じたことは、自分がその気になればできるんじゃないのかなというお話をいただいたわけですが、活力ある地域づくりに対しまして、鈴木様から隣近所の関係の話があったと思います。今回の雪が大変でした。私も地域の皆さんと一緒に雪かきをやりましたが、やはり地域でどんな風にまとまっていったら活力を生み出すことができるのかなということを考えながら話を聞かせていただきました。いろんな意味で参考になったことが多々ありました。お互いにルールはルールとしてということよりも、人の嫌がることはやらないで、人の良いところを見ましようということなのかなということを感じました。大変参考になる話ありがとうございました。



### 【富士・東部教育事務所 杉田 眞 先生】

ありがとうございました。この意見に対してパネリストの方々何かありますか。

### 【パネリスト 鈴木 律子 氏】

私が住んでいる初狩の藤沢なんですけど、近所の底力が強力なところで除雪車が来る前に車を通れるようにしちゃったくらいなんですけど、このご近所パワーというか地域の結束というのはどこから出てきているんだろうということをこれから私も学んでいきたいなと思っています。ありがとうございます。



### 【意見者 C】

3人のパネラーの皆さんありがとうございます。たくさんの示唆をいただいたんですけど、私は3人の発表を聞きながら情熱というのが大きな力になっているんだなと感じました。私も60歳になろうとしていて、次の人生を考えなければいけないのかなと思っていますが、自分なりにできることを少しずつ無理のないように頑張っていきたいと思いました。貴重なお話ありがとうございました。



### 【意見者 D】

最初の村山さんのお言葉伺っておりまして東北訛りの非常に素朴なお人柄ということで、大月はこういうところなんですけど、飽きられずにしっかり頑張っていきたいと思いました。米山さんは私と同じ街なんですけど、猿橋のお店がなくなっていると、特に橋の周りが寂しくなっているということで、頑張っやられております。私の方は無理と承知しながら今の扱っている商品の他にもう1つ何かやってくれないかをお願いしているところなんですけど、

引き続き頑張ってもらいたいと思います。特に去年は商店が1つなくなってしまったので、正直言って街の人の助けになっていると思います。今後とも米山さんに頑張ってもらいたいと思います。最後に鈴木律子さんですが、今日も新聞拝見してきました。毎日楽しみにしています。先ほどお話いただいた東北へ野菜を送っている話ですが、たまたま昨年までアヅクメ団地に住んでいる方で福島の方がいまして、帰られたんですが、今3か月に1回くらいはこっちにも来てくれるんですが、来るたびに持てるだけの野菜をリュックサックに背負って帰っています。やはり言い方は悪いですが、地元の野菜は安心できない。たとえ傷んでいてもいいから山梨の野菜がほしいと言っています。なのでなお一層頑張っていたらいいと思います。私としては協力できることを見つけてみようかなと思いますので、また連絡させていただきます。



【富士・東部教育事務所 杉田 眞 氏】

他いかがですか。今共感されている方も多いと思いますが。

【意見者B】

すみません。先ほども意見を言わせてもらったんですけど、重なる部分もあると思いますが、絆を深めて活力ある地域づくりをするためにパネリストの方々が今3名いますが、その横のつながりというものを考えてみてはいかがでしょうか。私いつも考えているんですが、大月市の中にもいろいろな団体がたくさんあります。その団体の代表の方に集まっていたいて、活力ある地域づくりを進めていくためにはどのようにしていけばいいのかということ話し合っていけばいいのかなと思いつながりを持っていく中で活力ある地域づくりを進めていけばもっといいのかなと思います。私もできる限りのことはやっていきたいと思いつながりを持っていく中で活力ある地域づくりを進めていけばもっといいのかなと思います。私もできる限りのことはやっていきたいと思いつながりを持っていく中で活力ある地域づくりを進めていけばもっといいのかなと思います。私もできる限りのことはやっていきたいと思いつながりを持っていく中で活力ある地域づくりを進めていけばもっといいのかなと思います。

【富士・東部教育事務所 杉田 眞 先生】

ありがとうございます。やはりキーワードを「つながり」ということでコーディネーターの白井先生の方にお返ししますので、まとめていただきたいと思います。

【白井コーディネーター】

ありがとうございました。会場の皆さんからパネリストの方々に多くの励ましの言葉やご意見をいただきまして、きっと3人の方々もこれからますます元気に、今の励ましやご意見を踏まえながら活動をされていくのではないかと考えています。時間がかなりなくなってきましたので、まとめの時間に入りたいと思います。まとめと言いましても、今までパネリストの皆さんと会場の皆さんから非常に貴重な参考になるご意見をいただいておりますので、私からお話できることも少ないんですけど、活動を始めるということはいろいろな取っ掛かりがあります。人と人との取っ掛かりだと思います。これが大きくつながってきて地域づくりにつながっていくと思います。このように活動を続けられている言葉は私達に大きな勇気と希望を与えてくれます。活動を始めると、「どうしよう、こうしたらいいか」など考え、学ぶ機会になります。そして、同じ想いの仲





間と一緒に活動することが生きがいや、やる気となっていきます。また、活動を続けていくといろいろな方々と繋がっていき、仲間の輪が広がり、やがて地域づくりとなっていきます。

そして皆さんお1人お1人の想いが、ここ大月市を創り上げ皆を幸せへと繋がっていきます。1つの活動は小さなものかもしれませんが、その小さな活動がいくつもいくつも繋がっていくと、それは大きなものになっていきます。何年か先大月市がたくさんの活動でいっぱいになるように皆さん今から仲間と一緒に始めてみようではありませんか。

本日はお集まりいただきましてありがとうございました。パネリストの方々、会場の皆さんありがとうございました。

以上でシンポジウムを終了させていただきます。

# 第52回大月市生涯学習推進大会

## 〈 アンケート用紙 〉

お忙しいところ、ご参加くださりましてありがとうございます。  
今後の参考とさせていただきますので、以下の問いにお答え下さい。

### ◎ あなたご自身について教えてください。 【該当するものに○印】

男性・女性 ( 10歳代～20歳代 30歳代～40歳代 50歳代～60歳代 70歳以上 )

#### 1) ご職業はどれに当てはまりますか？

ア. 自営業 イ. 勤め(全日) ウ. 勤め(パート・臨時) エ. 学生  
オ. 専業主婦 カ. 無職 キ. その他 ( )

#### 2) 今回の大会を何で知りましたか？

ア. チラシ イ. 知人・友人からの案内 ウ. 市広報 エ. 学校からの案内  
オ. 公民館からの案内 カ. 所属団体からの案内 キ. その他 ( )

#### I 大会に参加した動機について教えてください。

- ① 発表内容に関心があるから
- ② 取り組んでいる課題に直接的に役立ちそうだから
- ③ 仕事や地域活動の参考になる情報が得られそうだから
- ④ 生涯学習全般に興味があるから
- ⑤ コーディネーター・パネリストに関心があるから
- ⑥ 公民館や学校等から案内があったから
- ⑦ その他 ( )

#### II 全体構成や日時設定などはいかがでしたか？【該当するものに○印】

- ① ちょうど良かった
- ② 開会行事が長すぎる
- ③ シンポジウムが短すぎる
- ④ シンポジウムが長すぎる
- ⑤ その他 ( )

#### III 今回のシンポジウムは、全体としていかがでしたか？【該当するものに○印】

- ① とても良かった
- ② よかった
- ③ どちらともいえない
- ④ 不満だった
- ⑤ とても不満だった

〔上記を選んだ理由：〕

#### ● ご自由にお書き下さい。(感想又は、今後の大会で採りあげてもらいたい課題等)

ご協力ありがとうございました。

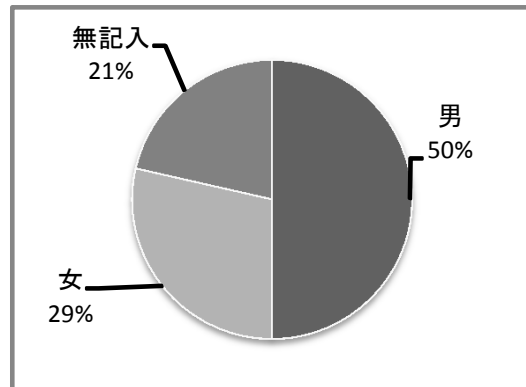
# 第52回大月市生涯学習推進大会 アンケート結果

アンケート件数: 42  
アンケート回収率: 35%

◎ あなた自身について教えてください。

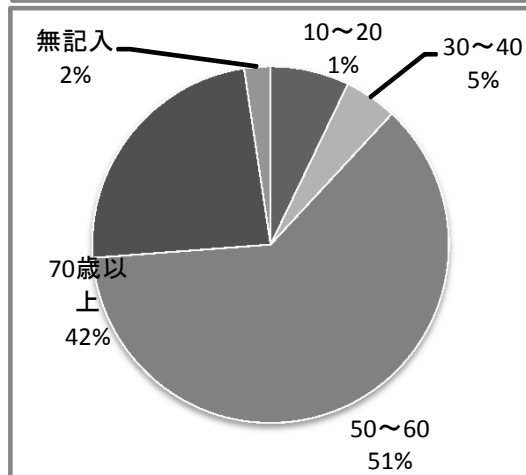
(性別)

男	21
女	12
無記入	9



(年代)

10歳代～20歳代	3
30歳代～40歳代	2
50歳代～60歳代	26
70歳以上	10
無記入	1



1) ご職業はどれに当てはまりますか？

ア	自営業	1
イ	勤め(全日)	13
ウ	勤め(パート・臨時)	7
エ	学生	0
オ	専業主婦	9
カ	無職	11
キ	その他	1
	無記入	0

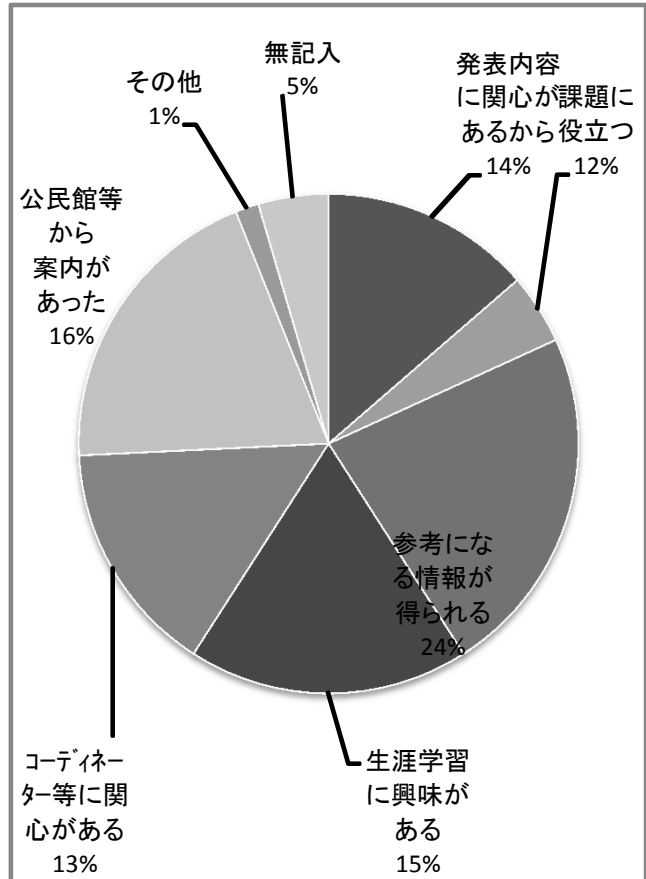
2) 今回の大会を何で知りましたか？

ア	チラシ	3
イ	知人・友人からの案内	2
ウ	新聞記事	11
エ	学校からの案内	0
オ	公民館からの案内	17
カ	所属団体からの案内	9
キ	その他	1
	無記入	1
	二つ回答	2

■ 2) その他に当てはまり、記入された内容

I 大会に参加した動機を教えてください。【複数回答可】

①	発表内容に関心があるから	9
②	取り組んでいる課題に直接的に役立ちそうだから	3
③	仕事や地域活動の参考になる情報が得られそうだから	15
④	生涯学習全般に興味があるから	12
⑤	コーディネーター・パネリストに関心があるから	10
⑥	公民館や学校等から案内があったから	13
⑦	その他	1
	無記入	3
	二つ以上回答	24

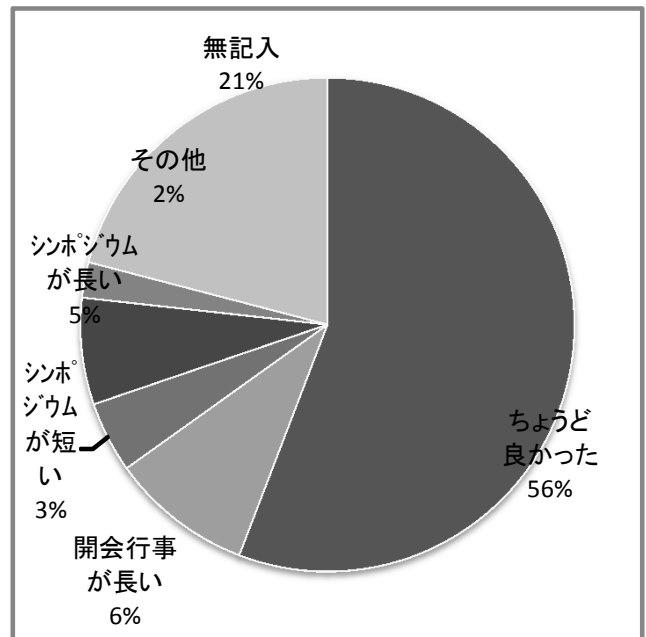


■その他に当てはまり、記入された内容

- ・ 知人がパネリストとして出ているから

II 全体構成や日時設定について【複数回答可】

①	ちょうど良かった	24
②	開会行事が長すぎる	4
③	シンポジウムが短すぎる	2
④	シンポジウムが長すぎる	3
⑤	その他	1
	無記入	9
	二つ以上回答	1

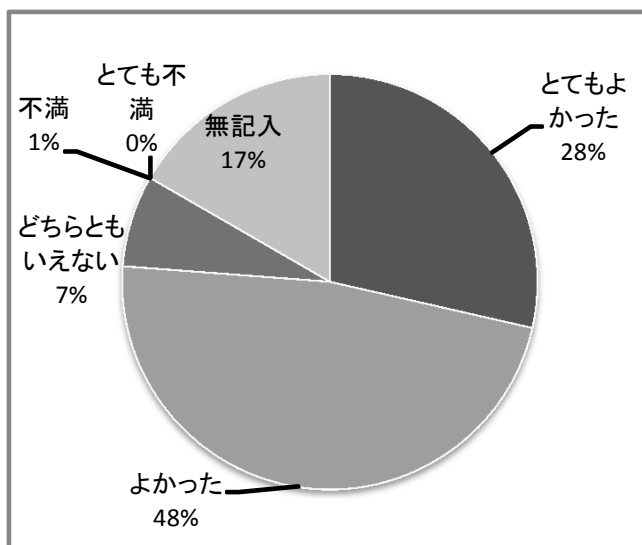


■その他に記入された内容

- ・ シンポジウムの時間配分が残念に思った。はじめが長かったがだんだんと短くなっていき、対話の時間も急いでいて残念に思った。

### Ⅲ 今回の大会は、全体としていかがでしたか？

①	とてもよかった	12
②	よかった	20
③	どちらともいえない	3
④	不満だった	0
⑤	とても不満だった	0
	無記入	7



#### ■ 上記を選んだ理由

- ・ 発表された方がそれぞれ「地域づくり」「地域の活性化」について考え、活動されていることは大変素晴らしいことだと思います。大変刺激になり、参考になりました。
- ・ 悪天候のためか参加者数が少なかったのが残念であったが、それぞれの実体験をもとに活動の様子を分かりやすく発表されたことがよかった。
- ・ 少し長かった。
- ・ 提案者の情熱を強く感じました。
- ・ それぞれのシンポジウム内容が素晴らしく、大変興味深く聞かせていただきました。
- ・ 地域づくりとは…と考えるいいきっかけになりました。ありがとうございました。
- ・ 身近なことでよかったです。
- ・ 今の社会情勢に必要なことであると思う。
- ・ だんだん過疎になる大月市に活性化をさせてください。
- ・ 少しでも何かしたいとの思いで、実践しているパネリストの方々は素晴らしいと思います。行動に移すことは大変難しいのですが、村山さんたちの「喜んでもらえれば」「無理をしない」でできることをやっていくことが大切かと思います。
- ・ 分かりやすい話でした。
- ・ 日々の生活の中での実行していることで大変に良かったと思います。
- ・ 人のために何かしてやろうという意気込みが感じられた。
- ・ 身近な話で興味が持てた。
- ・ 活動している方の生の声が聴けた。
- ・ あきらめ感の強い市民・市内に行動力ある人達の元気が会場全体に広がって、影響を受けたと思う。

- ・ 地域に密着した取組から現代の社会ニーズへと広がっている努力が伝わりました。

## ■ 自由記入欄(感想または、今後採りあげてほしい課題等)

- ・ 雪の影響でしょうか。今回の推進大会は参加者が少なかったように感じました。とても内容が良かったと思いますので、少々残念に思いました。
- ・ 生涯学習に対し、地域での活動という視点を含めて見直す機会を与えて頂きありがとうございました。
- ・ ボランティアについて、ボランティアの真の意味等々
- ・ 参加人数が少ない(生涯学習についてもっとアピールする)
- ・ できることはやっていることで自分の喜びになり、他の人とのつながりになるということ学びました。
- ・ 内容はとてもよかった。ありがとうございました。
- ・ 時間配分をしっかりと、ディスカッションの時間を取ってもらいたかった。行動することにつながりができてくるのかなと感じました。とても勇気をもらいました。
- ・ 退職間際の私にとっては退職後少しでも地域で関わりが持てるようにしていければよいと思います。ありがとうございました。
- ・ 人と人の繋がりが大切であると感じた。
- ・ 生涯学習の地道な活動であるが、頑張ってください。
- ・ 鈴木さんの若いのに東北の方々に思いをはせ、大月の遠いところからの支援をすることは素晴らしいことで、高齢者の私も何かできることがあるかもしれない。
- ・ 鈴木さんの話に考えさせられる事が多くありました。行動力に拍手。
- ・ 天気のためか参加者が少なかったのが残念です。行動に移せる人と行動に移せない人の心理をシェアし合う会など広げてほしい。
- ・ もっと大勢の方が学習大会に参加してもらうように市民に分かるようにすることが参加を増やすことかと思えます。足元が雪のため来られなかったのかとも思えます。
- ・ 昨年よりとても少なかったので、本当に申し訳ない。今回は広報で見た人、関心のある人でもっと地域に宣伝をしたい。とてももったいないです。

## 第52回大月市生涯学習推進大会 参加者集計表

所属団体等		合 計
公 民 館 ( 分 館 含 む )	笹 子	2
	初 狩	10
	真 木	6
	大 月	7
	賑 岡	17
	七 保	15
	瀬 戸	1
	猿 橋	11
	富 浜	8
	梁 川	8
青少年育成市民会議		1
青少年育成推進員連絡協議会		1
文化協会		1
青年会議所		0
男女共同参画推進委員会		0
社会福祉協議会		2
老人クラブ連合会		2
ボランティア協議会		2
民生委員児童委員協議会		2
保健活動推進委員会		0
PTA連合会		0
スポーツ推進委員協議会		2
郷土資料館運営委員会		0
図書館協議会		0
大月短期大学		0
市内小中学校		2
個人		10
その他(山梨市社会教育委員、生涯学習課職員)		9
小 計		119
主催者 (教育委員・社会教育委員・地区公民館長)		26
来賓		5
シンポジウム関係者 (コーディネーター・パネリスト等)		6
アトラクション関係者 (ジャズダンスグループ「DREAMS」)		35
社会教育課 (推進大会運営業務従事職員)		16
総 計		207

